

事業名：花のある街並みづくり事業

環境課 主査（自然環境）

政策	01 環境と調和する都市の構築								
施策	03 水とみどりの保全と創出活用								
基本事業	02 水とみどりの創出活用								
開始年度	平成 9年度	終了年度	—	実施計画 事業認定	対象	会計区分	一般会計	補助金	事業補助

事務事業の目的と成果

対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・市民団体
- ・小中学校

手段（事務事業の内容、やり方）

- ・昭和43年に制定された江別市民憲章の実践活動を担う江別市民憲章推進協議会が進める「花のある街並みづくり運動」を支援し、快適な街並みづくりを推進するため補助を行う。（花のある街並みづくり事業補助金：地方自治法第232条の2（寄付又は補助）に基づく江別市民憲章推進協議会への補助金で、補助率等規定なし）
- ・小中学校に、花壇づくり等資材を提供する。

意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

快適で美しい街並みづくりのため、花やみどりが学校や街並みのなかにある環境を市民協働で創出する。

指標・事業費の推移

区分		単位	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度当初
対象指標1	市民団体数	団体	235	235	235	235
対象指標2	小中学校数	校	27	27	27	27
活動指標1	花のある街並みづくり参加市民団体の数	団体	107	103	104	104
活動指標2	助成花苗の数	株	83,694	82,959	81,378	82,000
成果指標1	活動団体数	団体	107	103	104	104
成果指標2	街並みを彩る実践を行う学校の数	校	27	27	27	27
事業費(A)		千円	2,754	2,748	2,698	3,778
正職員人件費(B)		千円	2,809	2,806	2,735	5,477
総事業費(A+B)		千円	5,563	5,554	5,433	9,255

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・江別市民憲章推進協議会への事業費補助（活動団体への花苗助成事業） ・小中学校に対する花壇づくり資材の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・花苗助成事業への補助金 2,463千円 ・小中学校に対する花壇づくり資材の提供 236千円

事業を取り巻く環境変化
事業開始背景
事業を取り巻く環境変化
江別市民憲章推進協議会は、市補助金と緑の募金を財源に事業運営をしているが、募金は市民、企業等から寄せられた善意によるもので、景気の低迷等により募金額の増額は期待できない。 また、活動団体である自治会、高齢者クラブ等の高齢化による担い手不足が懸念され始めている。

平成25年度の実績による担当課の評価（平成26年度7月時点）	
(1) 税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 妥当性が低い	理由 根拠 花のある街並みづくり運動は、市と市民が役割を果たしながら協働の理念に基づいた実践活動であり、この取り組みが、地域の緑への親しみにつながっており妥当である。
(2) 上位の基本事業への貢献度は大きいですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 貢献度大きい <input type="checkbox"/> 貢献度ふつう <input type="checkbox"/> 貢献度小さい <input type="checkbox"/> 基礎的事務事業	理由 根拠 市民の手によって地域が明るく快適な環境づくりをしていくことから貢献度は大きい。
(3) 計画どおりに成果は上がっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？	
<input checked="" type="checkbox"/> 上がっている <input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> 上がらない	理由 根拠 参加団体の取り組みにより、地域コミュニティの形成と快適な街並み環境づくりが進んでいる。
(4) 成果が向上する余地（可能性）がありますか？その理由は何ですか？	
<input type="checkbox"/> 成果向上余地 大 <input checked="" type="checkbox"/> 成果向上余地 中 <input type="checkbox"/> 成果向上余地 小・なし	理由 根拠 花のある街並みづくり運動は、自治会、高齢者クラブ等が主体的に地域を良くしようとの取り組みを支援しているもので、自治会等（自治会163、連合会7、高齢者クラブ65）組織全ての取り組みではない。担い手の高齢化などにより近年、参加団体数が伸び悩んでいるが、運動の啓発を継続すると同時に、宿根草を普及させることにより手入れの負担が軽減されるなどすれば、成果向上の余地はある。
(5) 現状の成果を落とさずにコスト（予算+所要時間）を削減する方法はありますか？	
<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> なし	理由 根拠 市助成金及び緑の募金で運営しているもので、取り組む自治会も花苗代は約半分負担している。緑の募金は、市民、企業等の善意と理解によるもので、景気が厳しい状況では難しいが、自主的な活動が可能な事業や支援の方法について、協議していく。 また、一時的に事業費の増はあるが、将来の一年草幹旋株数抑制のため、宿根草の導入始めている。その効果検証は長期に亘るため当面はコスト削減余地はない。